

ボランティア・市民活動における連携・協働を考える

2022年2月2日「広がれボランティアの輪」連絡会議勉強会

日本大学 諏訪 徹

協働って何？

- 阿部志郎

地域福祉は、地域内の公私の機関が協働し、社会福祉のための各種の施策・施設・人材等の資源を動員することによって、地域の福祉ニーズの充足を図るとともに、住民参加による社会福祉活動を組織し、地域の福祉を高めようとする公私協働の実践的体系である。

- 日本NPOセンター

「異種・異質の組織」が、「共通の社会的な目的」を果たすために、「それぞれのリソース（資源や特性）」を持ち寄り、「対等の立場」で「協力して共に働く」こと。

- セクター間の協働…日本でセクター間の協働が広く意識されるようになったのは90年代。NPOが誕生し、多様なセクターへの認識が高まってきたころから。政府や自治体、NPO、企業も協働に期待し、セクター間の協働が広がっていった。

例) ボランティアセクター×企業
災害ボランティアセンター
協働プラットフォーム

- 地域における協働（連携）…地域における連携やネットワークという意味での協働は、協働とかセクターとかいわれる以前から行われてきた。

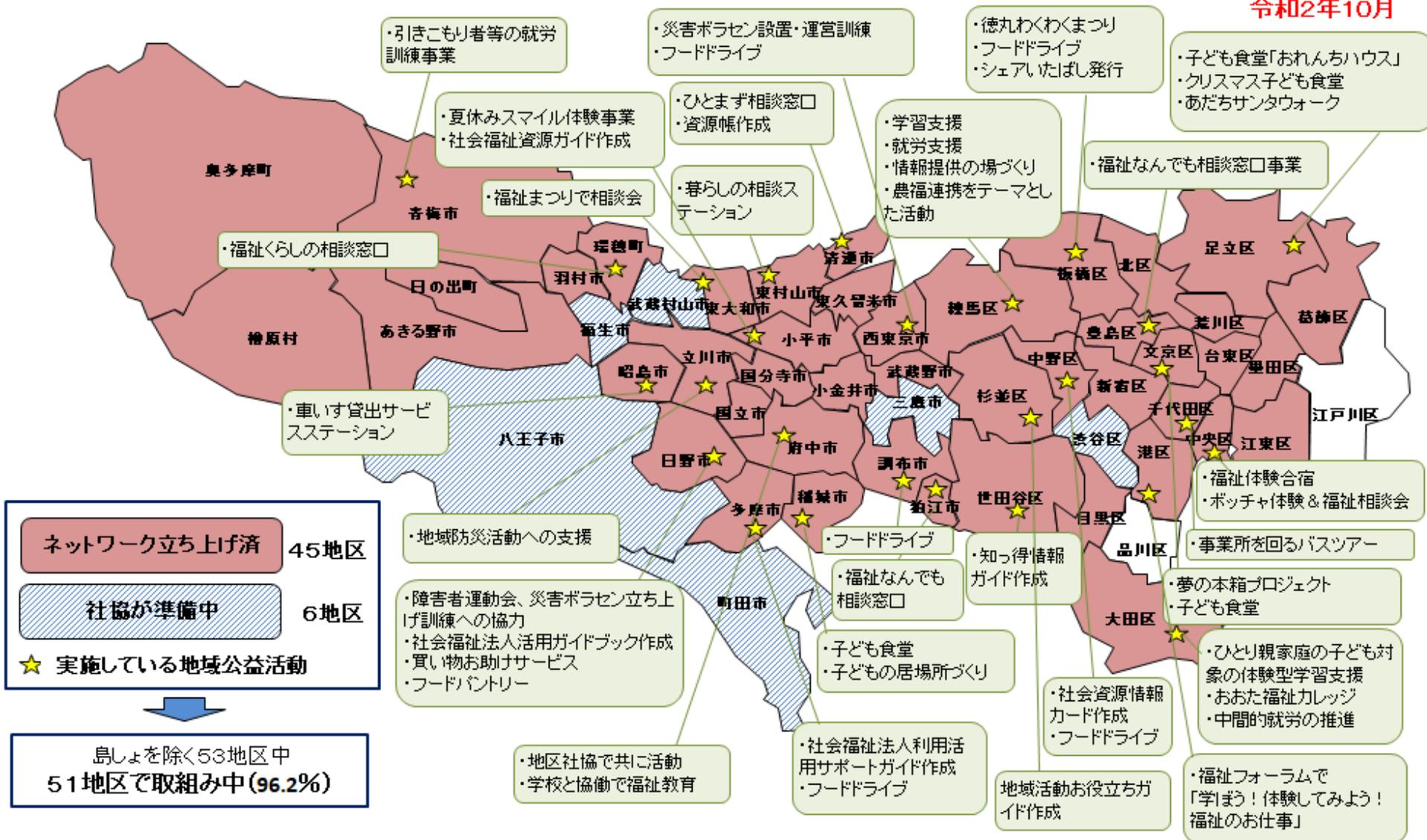
例) ボランティアグループの連絡会
祭などイベントの実行委員会
ボランティアと専門機関が連携した支援活動

協働の実際

- 協働の事例は枚挙にいとまがない。広がりや発展性のある実践に協働は不可欠
 - フードバンク・フードドライブ
 - コミュニティスクール
 - 生活支援体制整備事業の第二層協議体
 - 災害ボランティアセンター・ネットワーク
 - Table for Two プログラム etc
- 2016年の社会福祉法改正で社会福祉法人に地域における公益的な取り組みが義務づけられた。法人単位の取り組みだけでなく市町村の法人ネットワークがつくられ地域の団体と協働する例が広がっている。

地域公益活動推進のための地域ネットワーク化の状況と連携による地域公益活動

令和2年10月



協働はしなければならないものではない

- 地域全体からみればたしかに協働には意義がある。しかし、協働するかどうかはあくまでも各団体の自由意思。
- 協働すると打合せや調整の手間や活動が増えて負担が増すかもしれない。システムの一部に組み込まれ活動の自由さや柔軟性が失われてしまうかもしれない。委託金収入等がセットだと活動がお金に縛られてしまうかもしれない。
- ボランタリーな活動なのだから、仲良く・楽しく、無理せず、細く・長く今の活動を続けていくという選択も立派な見識。
- もしこれまでの活動理念や使命が損なわれず、協働によって使える資源が増えたり、活動が活性化する、広がるなどのメリットがあり、メンバーが合意するなら、協働すればよい。
- 特に中間支援組織・推進機関は協働は「是」「必要」と考えがちだが、協働するのが当然というスタンスは要注意。

そのうえで

やはり協働には意義がある

- できる範囲で、楽しく、継続することは大切だが、時々新しいことに取り組み、外部と連携しないと、活動のマンネリ化、メンバーやリーダーの固定化に陥るかもしれない。
- ボランタリーな団体は人とアイデア、ネットワークはあるが、お金や拠点はあまりもたない。ニーズに応じて新たな活動を始めるのは自分たちだけでは難しい。
- 協働で新しい刺激をうけたり、資源がもたらされることで、新しい視野・気づきが得られたり、新しいメンバーが入ったり、活動が発展していくきっかけとなる。面白い活動、発展している活動を見ると、たいがいは協働している。
- 大規模な組織や推進機関は、官僚制や組織文化の逆機能で、メンバーの思考や行動が均一化し、革新が生まれにくくなっている場合がある。外部とつながり、刺激を受けることで、逆機能を防ぎ、組織に外からの新しい風や革新をもたらされる。

協働のコツ・方法

- 多くの人々が共感する目標・ビジョン・ミッション
- 異なる関心・利害の接点、立場の尊重…異なる関心・利害の接点を見つける。セクターの違いによる行動原理の違いを尊重する。
- win-winの関係…参加者それぞれにメリットがある。互いの強味を発揮し、弱みを補完する。
- 場・プラットフォーム…共通の課題、活動の目的、役割分担を決め、知恵・資源を持ち寄り、活動の企画、実施、評価を一緒に行う。組織というよりも、出入り自由、ミッションが実現されれば解散してもよい緩やかな場・プラットフォームをつくる。

各セクターの行動原理と強味・弱み

	行動原理・供給方法	強み	弱み・限界
政府セクター	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、公的資金に基づいて活動する ・社会的に必要性が認められたニードに対して、政府が法令に基づいて資金調達し、供給する。 ・税や社会保険料による財源調達 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的に必要なサービスが比較的無料・低額、安定的、公平に提供される ・多くの人材、資金、備品・設備、拠点、専門的な技術などをもっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令・規則にそった画一的な対応になりがち ・十分に社会的コンセンサスのある範囲でしか活動ができない ・財政的・人員面での制約がある
民間市場セクター	<ul style="list-style-type: none"> ・私的な資金に基づく利潤の拡大と株主への配分のために活動する ・消費者からの需要に対して、各企業がサービス・商品販売する 	<ul style="list-style-type: none"> ・需要があり利潤が見込めるなら、多様なサービスが提供される ・多くの人材、資金、備品・設備、拠点、専門的な技術などをもっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的に必要でも需要がなく利潤がみこめなければ供給されない ・所得・資産が乏しい人々は利用しにくい ・消費者の主観的効用と社会的な必要性・望ましさは必ずしも一致しない
民間非営利セクター	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の多様な発意・価値観、メンバー間の合意や連帯・共同性に基づいて活動する ・ボランティア団体、NPO、協同組合等によるサービスや相互扶助 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値に基づくため活動が多様。 ・柔軟で、きめ細かな活動ができる。 ・受け手と担い手が峻別されず、対等な関係が保たれやすい ・比較的無料・低額で提供される 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間以外には排他的となりがち ・財源・拠点・設備など資源獲得が難しく、活動が不安定となりがち ・活動参加や費用負担しないが支援を受けるフリーライダーが生じがち

コロナ禍と協働

- コロナ禍で新しい活動を生み出した団体の特徴
 - ・ こんな時こそ動かなきゃとメンバーが強くなった
 - ・ とにかく話し合いを続け活動を止めなかった
 - ・ 感染予防について信頼できる専門家の助言を得た
 - ・ 自分たちの責任で自律的に判断し活動した
 - ・ これまでの活動の再開にこだわらずやれることをやった
- たくさん集めるのではなく小さく集まる、離れていても一緒に取り組む、という新しいつながり方
 - ⇒ 育て・交換する～プランターファーム
 - ⇒ 祈りを届ける～シトラス千羽鶴プロジェクト
 - ⇒ 小さなつながりを発信する～つながり通信
- ゆるやかな協働のバーチャルなプラットフォーム？